

# 動物園の存在意義と教育的活用方法の提案

平成30年度 3年2組(10) 片岡美羽  
指導 教育学部 向 平和

## はじめに

日本動物園水族館協会（JAZA）によると、動物園の役割は「種の保存」「教育・環境教育」「調査・研究」「レクリエーション」の4つである。あまり認識されていない「教育・環境教育」に目を向け動物園の社会教育施設としての役割を考える。

## 目的

- ①存在意義の顕在化  
動物園の役割の整理  
小学校教科書における掲載内容の調査
- ②教育的活用方法の提案  
現地調査  
小学生を対象とした実践

## 研究方法

- ・文献調査→研究内容Ⅰ  
社会教育施設に関する法令等の調査  
小学校理科の教科書における動物園の活用について調査
- ・動物園の職員へのインタビュー調査→研究内容Ⅱ  
動物園での教育活動・教育資源の実態を調査
- ・小学生を対象とした教育実践に参加→研究内容Ⅲ  
動物園を活用した教育活動を企画・実施

## 研究内容Ⅰ

○社会教育施設としての役割

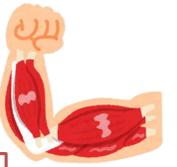
生涯学習・社会教育としての動物園の活用

- 教育を受ける権利として
  - ・UNESCO「学習権宣言」(1985)
  - ・教育基本法(第3条・第12条)
  - ・ブダペスト会議(1999)  
「科学と科学的知識の利用に関する世界宣言」
- リカレント教育の場として

○小学校4年生の教科書

5社の教科書を比較  
「ヒトの体のつくりと運動」  
2社で明確に掲載されていた

国際成人力調査(OECD PIAAC 2012)  
日本の30歳以上の成人の通学率1.60%  
(ランキング18か国中で最低、最高は8.27%フィンランド)



## 研究内容Ⅱ

調査日時：平成30年4月27日

調査場所：愛媛県立とべ動物園

調査結果

○飼育員さんへのインタビュー

移動動物園ではどのようなことをしているのか

○×クイズ、ウサギの心臓を聴診器を使って聞いてみる、フンなどの実物を見せるなど

1日のエサ代は

1日13万円、年間で4400万円

動物園はどのような場所なのか

動物園はただ遊びに来るだけの場ではなく社会教育の場である



図1



図2

## 研究内容Ⅲ

日時：平成30年7月14日

場所：愛媛県立とべ動物園

対象：愛媛大学教育学部附属小学校4年生

小学生、保護者、高校生、大学生の4人一組

動物の様子を写真や動画に収める。  
撮ったものから発表したい内容を抜粋  
今回は動物の体のつくりや人間と違うところに注目して行う。

<5班>

○メンバー

小学生2人(兄弟)、保護者(母親)、大学生、高校生

○順路

バク⇒猿山⇒カンガルー⇒猿⇒ペンギン⇒アシカ  
⇒ジャガー⇒ピース

○発表内容

いろいろな動物の食べる様子

○気付いたこと

動物の特徴を書いている看板を撮っていた。  
写真撮影機能などICT機器に興味津々だった。  
同じ動物なのに檻を分けているのはなぜか疑問に思っていた。

メンバーと積極的に話すことができなかった。

→アイスブレイクの重要性を実感



図3



図4

## 考察

- ・動物園がなくなってしまうようにするためにはとにかくいろいろな形での活用が必要
- ・研究Ⅲから、動物園を教育で活用するにはロイロノートのような子どもが興味を持って学習ができる機器を使うことも大切
- ・いろいろな年齢の人と一緒に学習を行っていくことでコミュニケーション能力の向上にも繋がる
- ・展示型の教材には初めて知ることがたくさんあり、それによって新たなコミュニケーションが生まれるのももっと増やすべき
- ・初対面で会う人とは自己紹介などの時間をとって少し打ち解けることが必要

## 結論

- ・動物園はただ動物を展示しているだけではなくなくなってしまふ。だから今回のように教育などに活用が必要
- ・動物園でないとできないことを明確化する必要
- ・動物園の役割がレクリエーションから変化
- ・種の保存や教育が主の役割に(ただし楽しむことも重要)

## 謝辞

この研究において指導をしてくださった愛媛大学教育学部の向平和先生、とべ動物園の宮下敬介さん・池田敬明さん、大学生の皆さん、課題研究のための授業や日程を考えてくださった加藤先生、本当にありがとうございました。

ロイロノートとは

「思考力」「プレゼン力」育成ツール  
テキストだけでなく写真や動画、地図などのカードを繋げてつくるプレゼンテーション